

## 調査依頼

依頼者：稲葉英雄（愛知県 団長）

依頼内容：

男子選手権クラスの 20 番コントロール（133 番、尾根）の設置位置が地図上の円の中心部分とずれていないか、および位置説明の尾根上にあったか調査をお願いします。

回答者：宮西優太郎（競技責任者）

回答内容：

133 番コントロールは本来あるべき位置よりも 5~7m ほど東に設置されていた。また現地の地形は曖昧で、尾根上とも尾根上でないともとれるような状態であった。さらに、コントロール南西側の地形が地図表記と若干異なっていることを確認した。

## 提訴

依頼者：稲葉英雄（愛知県 団長）

依頼内容：

競技不成立を求めるわけではありませんが、当該コントロールによって競技の公平性が担保されていたか、改めて審議していただき、再発防止について考えてもらい、本日の競技結果については審議いただいた上で再度適切な判断を下していただきますようお願いいたします。

裁定内容：

日本オリエンテーリング競技規則 16.3 に抵触するか現地を確認した。

16.3「地図上に示した特徴物に取り付ける」→異なる位置にコントロールが設置されていた。「競技者が記載された場所を視界に捉えたときにフラッグも見えるように設置する」→明瞭には見えなかった。

提訴依頼者に再度提訴内容を確認したところ、競技不成立は求めておらず、競技内容が競技規則に抵触するか確認し、事実を公表してもらいたいとの依頼だった。よって、上記のとおり、競技規則に異なった競技運営がなされていたことを公表し、将来の再発防止を提言するよう、主管者に求める。

裁定委員：廣田雅幸

橋本八州馬

糸早穂

参加者の皆様へ

2023年4月12日  
第31回全日本リレーオリエンテーリング選手権実行委員会  
競技責任者 宮西優太郎

## 133番コントロールの調査結果について

下記の通り、2023年2月5日に開催いたしました第31回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会における調査結果をご報告いたします。

### ■事象

133番コントロールが本来設置すべき位置から5~7m程度ずれた位置に設置されていた。競技後、選手からの調査依頼（※別紙参照）によりこの事象が発覚した。

### ■原因

#### 1. 不適切なコース設定

当該コントロールの特徴物は尾根であったが（図1）、現地は非常に曖昧な地形で、はっきりとした尾根は存在しなかった。そのため、そもそもコントロール位置として適切であるとは言えない。今回、トレインや会場の制約から曖昧な特徴物に置かざるを得ないコントロールも多く存在し、当該コントロールもその一つであった。

#### 2. 設置位置の誤り

当該コントロールは小道から10m以内の距離となるよう設定されており（図2）、これは選手が小道からアプローチした際に容易にコントロールを発見できるようにする意図があった。しかし、これによって本来の位置とは若干異なっても小道から見やすくなるような位置に設置されたことも考えられる。一方で、尾根からアプローチすると藪や地形によりコントロールの被視認性が低くなっていた。

また設置後には設置した運営者とは別の運営者、およびイベントアドバイザーによって複数回のコントロール確認を行ったが、小道から容易に視認できるように設置位置の差異に気付きにくい状況であった。

#### 3. 地図精度の問題

当該コントロールの周辺の地図表記が適切ではなく（図2）、コントロールを置くことができるほど十分な精度ではなかった。これによってコントロール設置の難易度が上がり、設置のミスにつながりやすい状況であったと考える。

また、当該コントロールは本来あるべき位置から東に 5~7m 程度ずれた位置に設置されていた（図 2）。加えて、小道を基準にすると当該コントロールの特徴物である尾根は地図上よりも 5m ほど東に存在していた（図 2）。これら二つの要因によって、小道からアプローチした際にはあるべき位置から 10~12m 程度異なった位置にコントロールが設置されており、選手の混乱に繋がったと考える。

#### 4. タイトな運営スケジュール

大会開催の決定から大会当日までは数カ月しかなく、現地確認やコースの議論をする時間を十分に確保することができなかった。そのため、運営のクオリティを下げざるを得なかった。

第 1 回試走会は 2022 年 12 月中旬に行われたが、開催決定から間もない時期であったため、この時点ではまだ十分にコースを練ることができていなかった。そのため試走のフィードバックを生かせない状態だった。また、コースがほぼ確定した 2023 年 1 月中旬の段階でコースプランナーおよびイベントアドバイザーによる現地確認を行ったものの、時間的な制約から試走会を実施しなかった。そのため、上記「2. 設置位置の誤り」や「3. 地図精度の問題」を事前に発見するのに十分な機会を確保できなかったと考える。

### ■再発防止策

#### 1. コース設定

まず、曖昧な特徴物にコントロールを設定することは可能な限り避けるべきである。そのような箇所を設定せざるを得ない場合でも、近くに明確な特徴物が存在し、かつ見通しの効く場所に設定して、アタック時の不公平を極力減らす努力をすべきである。

#### 2. 運営スケジュールの改善

コースがある程度確定した段階で試走会を実施することができれば、コース設定や地図精度の問題に気づくことができた可能性は高い。そのため、余裕を持ったスケジュールで運営を進めていくことが必要だと考える。

#### 3. 地図精度の改善

今回使用した地図である「番匠峰古墳」は 2005 年に初版が発行されたものである。その後繰り返し修正が加えられているものの、現在の基準で考えると精度が十分ではない箇所も多い。高精度の GNSS を全域で導入したり、レーザー測量による原図を利用してリメイクしたりするなどの抜本的な解決策が必要である。

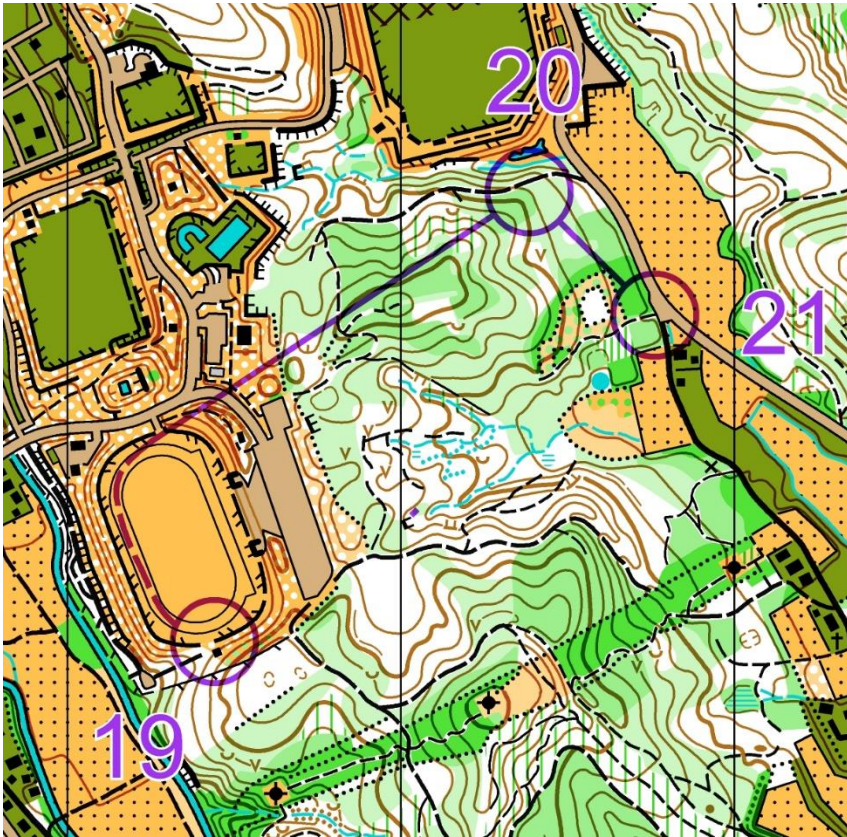


図 1. ME クラス Y パターンのコース図 (19-21 のみ。20 が 133 番コントロール)



図 2. 133 番コントロール周辺詳細図